

ドキドキ

2024.12.4

ドキドキすることがなくなってきた。それがいいことなのかはわからない。自分のことでドキドキすることは、明らかに減ってきている。気分的に楽なのは確かなのだが、自分の成長につながっているかという、決して肯定はできない。一抹の寂しさもある。

ドキドキする機会が減ってくると、どんどんそれを避けようとする。何気なくテレビを見ている。地上波のドラマなどに満足できない。それで、アマゾンプライムやネットフリックスの映画やドラマを見ることがある。最初はいいのだが、話が進み、こわい場面やつらい場面になると、見るのをやめることがある。それは、佳境ともいえる場面である。佳境を見ずに終わる。こんな調子だから、どんどん見るものが限定されていく。そのうち、ジブリアニメだけになってしまうかもしれない。

ずいぶん弱くなったものである。これでは、テレビから、ますます遠ざかるようになる。何年か前からそうなのだが、人前で話すときなど、緊張をコントロールできるようになってきた。今では、多少の緊張感があったとしても、ほどほどの状態で話している。だが、これも果たしていいことなのだろうかという疑問は残る。少しばかりの寂しさもある。

この前、知り合いのお子さんが、大学の推薦入試に見事合格した。自分のことでもないのに、少なからず緊張した。親御さんは、どのような気持ちで合格発表を待ったのだろうか。数年前の自分のことが思い出される。

ソフトテニスの大会で緊張することもなくなってきた。考えてみると、スポーツに限らず、自分が戦いの場にはいないことに気づかされる。それはそれで、気が楽なのだが、どうも寂しいというか、満足はできていないように思う。

静かに余生を送るというのには、まだまだ早い。ドキドキするということは、喜びもあれば、ガッカリがついてくることもある。人前で話すときなど、終わってからよく落ち込んでいる。自分にガッカリしている。うまく話すことができたと思うことなどまずない。話すのはむずかしい。

あまりにもドキドキする機会がないと、たまにあるドキドキに耐えられなくなるような気がする。映画やドラマでさえ耐えられないのだから、実際の場面ではどうなってしまうのだろう。今のところは、家族のことでドキドキすることはない。自分のことでもない。それが、かえってよくないような気がする。

やはり、人は、ドキドキしながら生きていくものなのだろう。決して楽しくはないのだが、生きているという実感は伴ってくるように思う。少しは、ドキドキするような展開を待つことにしよう。